



簡易手すりの導入

～夜を共に守るパートナー～

あしたかホーム ショートステイ

OT 相澤 かな
介護 芦川 優香
深沢 美里

1

あしたかホームSSの紹介



2

背景と課題

インカム 記録ソフト 見守りシステム 最新入浴機器 移乗ロボット

ICT化、介護ロボットの導入を進める

スムーズな連携

業務の効率化

介護ケアの質向上

3

背景と課題

夜間帯にセンサーコールが重なり、
タイムリーに利用者のもとへ駆け付けることは難しい



転倒・転落のアクシデント
やヒヤリハットの発生



利用者が転倒するのでは
という精神的な負担

✓立ち上がりや移動を補助する手すり等の設置が無く、
居室内の安全性が低い

4

背景と課題

そこで…

簡易手すりの導入



5

手すりの紹介

molten
From the Inside Out
株式会社モルテン
健康用品事業本部

生活動作支援用具 床置き型手すり

ルーツ HS



yazaki
矢崎化工株式会社
Yazaki Kako Corporation

たちあっぷ®



参照：矢崎化工株式会社HP (<https://www.yazaki.co.jp/>)
株式会社モルテンHP (<https://www.molten.co.jp/health/>)

6

手すりの使用例

立ち上がり補助

立位保持

歩行補助

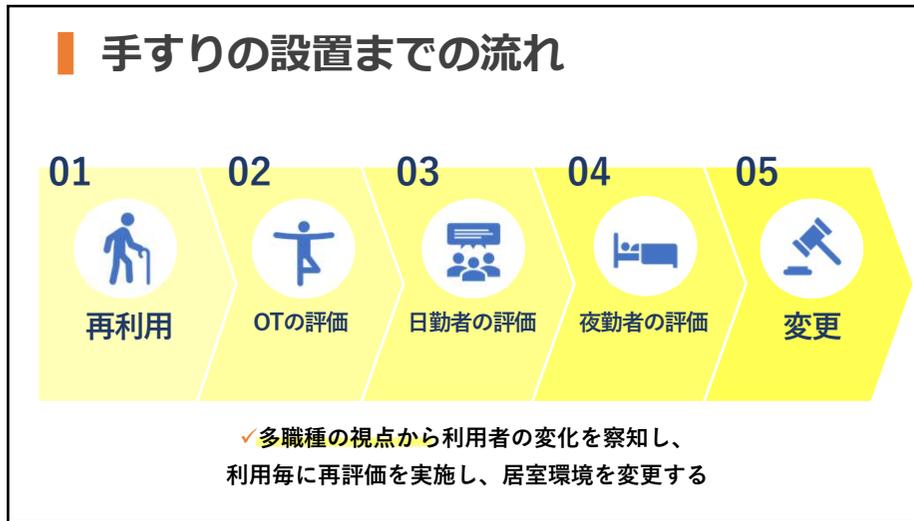


7

手すりの設置までの流れ



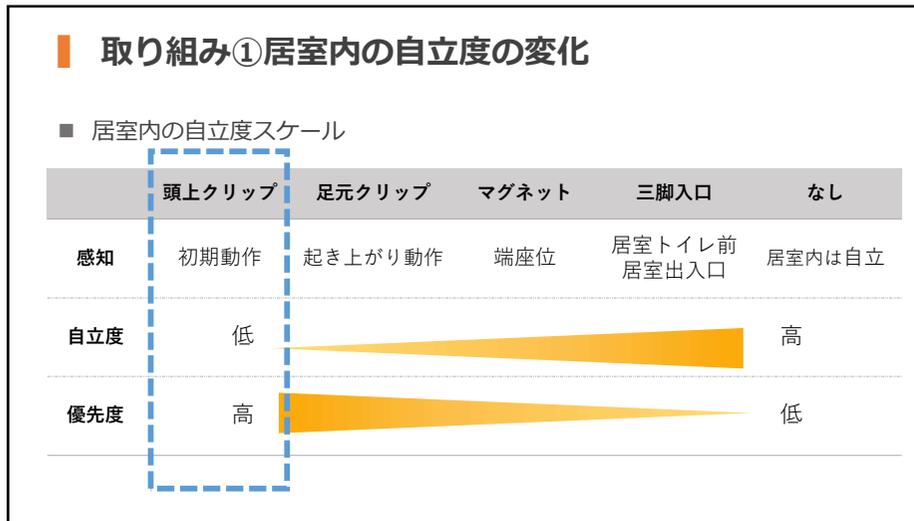
8



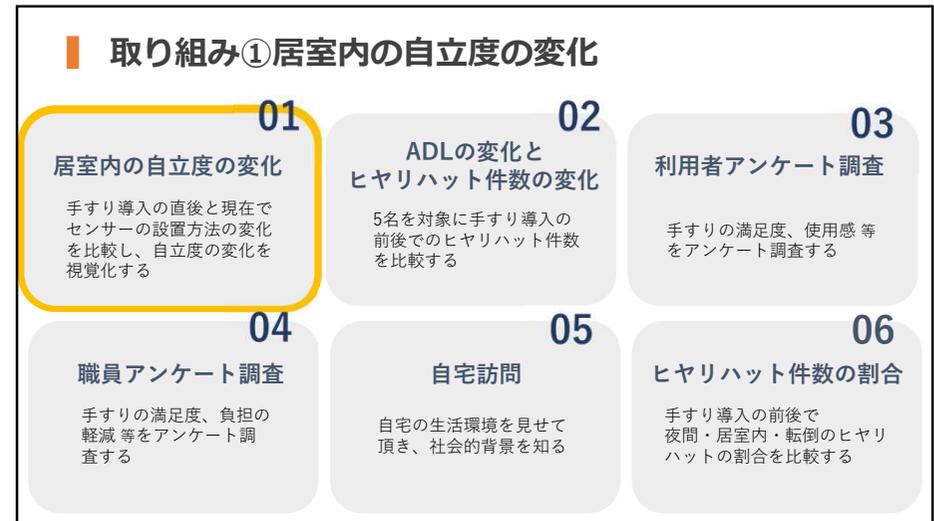
9



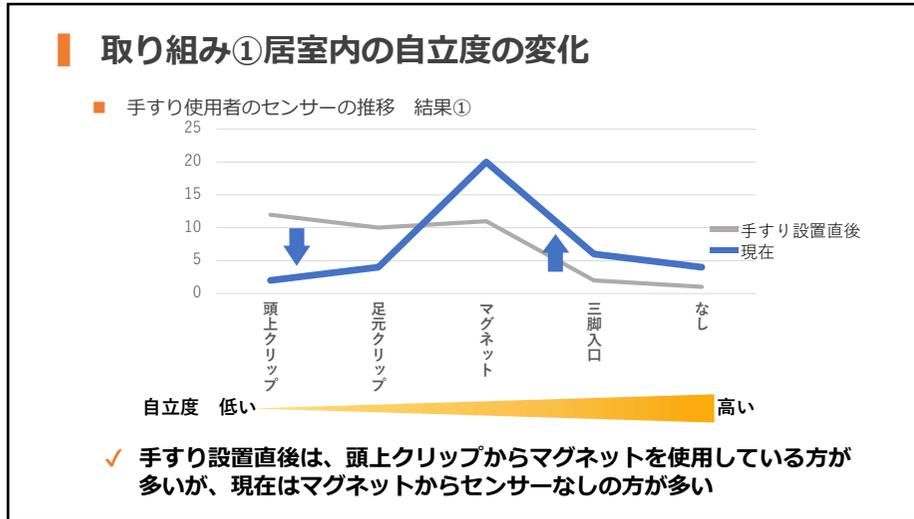
10



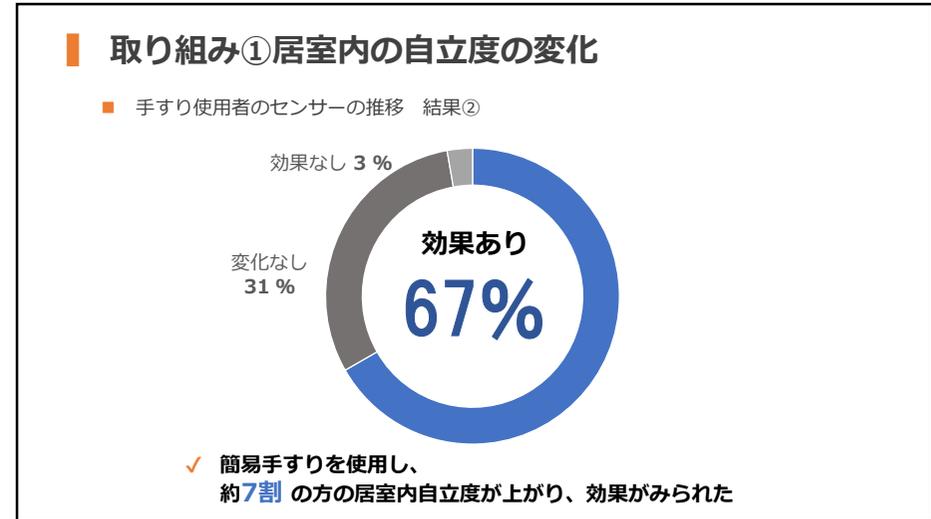
11



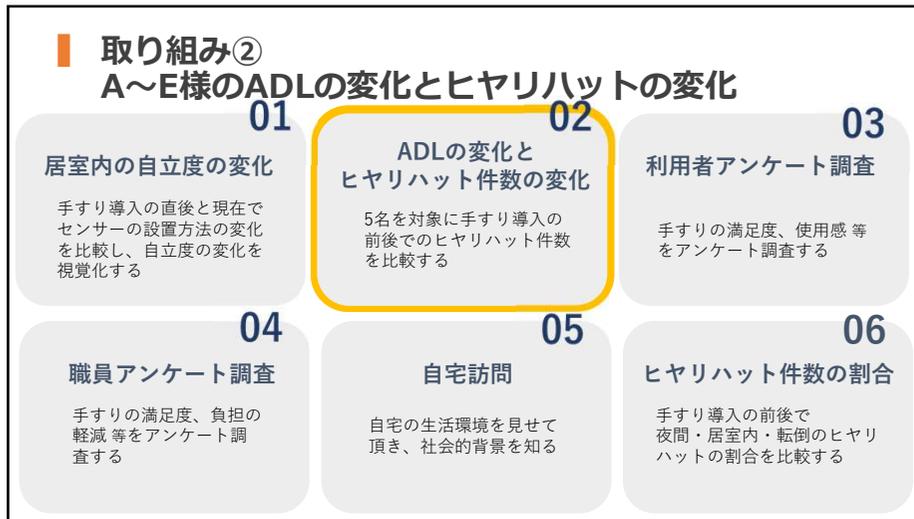
12



13



14



15

取り組み② A～E様のADLの変化とヒヤリハットの変化

■ 「障害高齢者のADL自立度」

生活自立	ランク	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する
生活自立	ランクJ	1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	ランクC	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもできない

※判定に当たっては、補装具や自助具等の器具を使用した状態であっても差し支えない。

参照：「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）-判定の基準」 | 厚生労働省
(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/000007382.pdf>)

16

取り組み② A～E様のADLの変化とヒヤリハットの変化

- A～E様の障害高齢者のADL自立度の変化

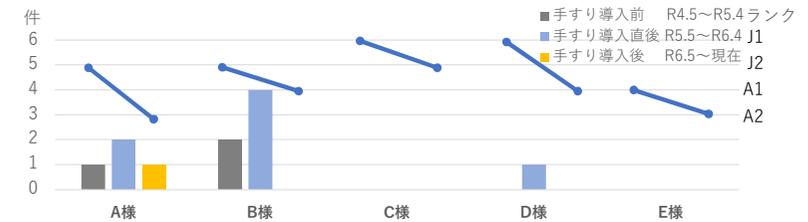
		障害高齢者のADL自立度	
		R4.5月	現在
A様 (83歳 女性)	杖+側方介助歩行	J2	A2
B様 (88歳 女性)	歩行器歩行	J2	A1
C様 (88歳 女性)	杖歩行	J1	J2
D様 (85歳 女性)	杖歩行	J1	A1
E様 (93歳 女性)	歩行器歩行	A1	A2

- ✓ A～E様において、R4.5月と現在でADLの自立度を比較すると、**低下**している

17

取り組み② A～E様のADLの変化とヒヤリハットの変化

- 手すり導入前後のヒヤリハットの推移（居室・転倒・夜間帯）



- ✓ A～E様において、R4.5月と現在でADLの自立度を比較すると、低下している
- ✓ 一方、ヒヤリハット件数は**減少**傾向にみられる

18

取り組み③利用者アンケートの実施

01

居室内の自立度の変化

手すり導入の直後と現在でセンサーの設置方法の変化を比較し、自立度の変化を視覚化する

02

ADLの変化とヒヤリハット件数の変化

5名を対象に手すり導入の前後でのヒヤリハット件数を比較する

03

利用者アンケート調査

手すりの満足度、使用感等をアンケート調査する

04

職員アンケート調査

手すりの満足度、負担の軽減等をアンケート調査する

05

自宅訪問

自宅の生活環境を見せて頂き、社会的背景を知る

06

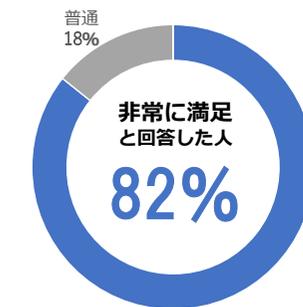
ヒヤリハット件数の割合

手すり導入の前後で夜間・居室内・転倒のヒヤリハットの割合を比較する

19

取り組み③利用者アンケートの実施 (手すり使用者21名対象)

▶ 満足度調査

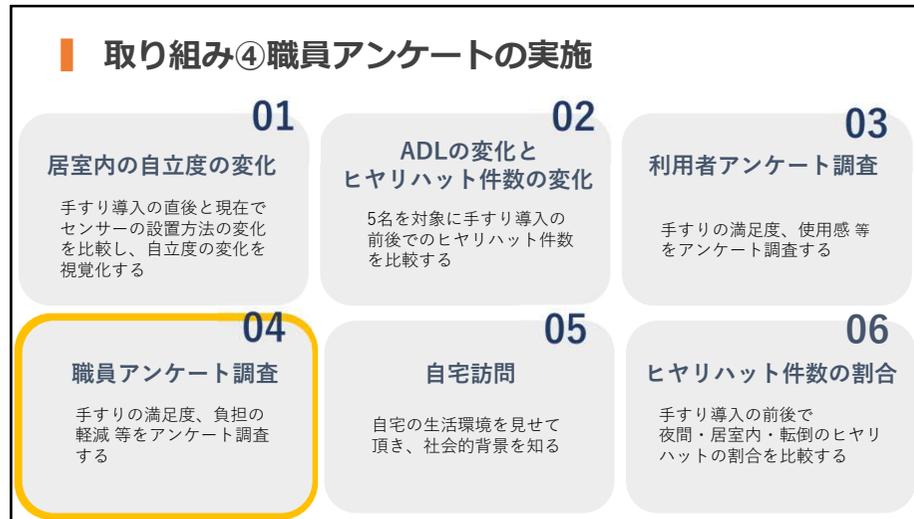


立ち上がる時にあると便利
ふらついたときに安心する
夜中は足が痛いから助かる

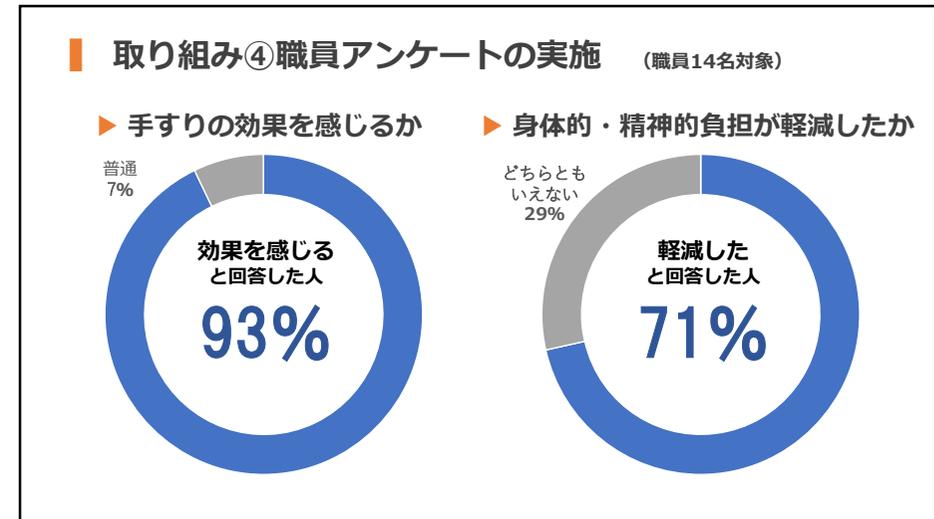


無くても歩ける
手すりがトイレまで足りない

20



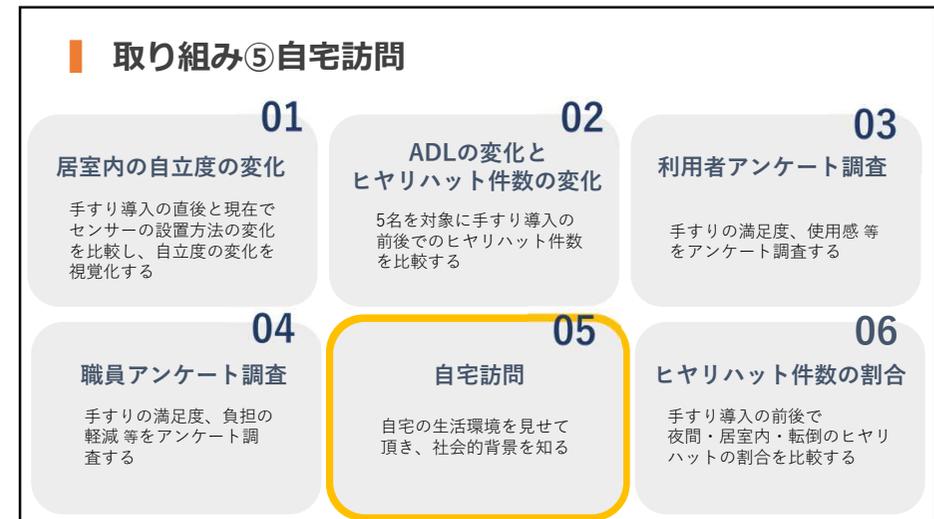
21



22



23



24



25



26

取り組み⑤ 自宅訪問

▶ 本研究で行っている自宅訪問についてどう思いますか (職員14名対象)

在宅サービスならではの取り組み

写真から利用者への理解も深まり、**その人らしさの支援**に繋がる

ご家族様と距離を縮める良い機会になった

自宅とSSの自立度に**差**がある方もいた

ショートステイは**在宅サービス**であるから、生活に少しでも近づけることは、利用者の**安心**に繋がる

ご自宅の環境を把握することで、利用者がどのような動きをするか**行動特性**が分かれば、手すりの位置に工夫ができる

コミュニケーションのきっかけになった

27

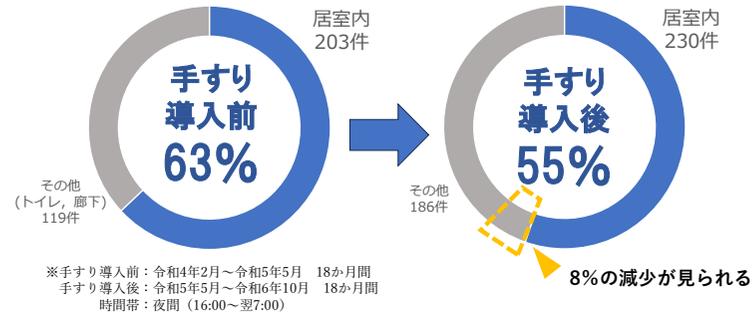
取り組み⑥ ヒヤリハット件数の推移

- 01 居室内の自立度の変化
手すり導入の直後と現在でセンサーの設置方法の変化を比較し、自立度の変化を視覚化する
- 02 ADLの変化とヒヤリハット件数の変化
5名を対象に手すり導入の前後でのヒヤリハット件数を比較する
- 03 利用者アンケート調査
手すりの満足度、使用感等をアンケート調査する
- 04 職員アンケート調査
手すりの満足度、負担の軽減等をアンケート調査する
- 05 自宅訪問
自宅の生活環境を見せて頂き、社会的背景を知る
- 06 **ヒヤリハット件数の割合**
手すり導入の前後で夜間・居室内・転倒のヒヤリハットの割合を比較する

28

取り組み⑥ヒヤリハット件数の割合

- 手すり導入前後のヒヤリハット件数の推移（夜間帯・転倒）



- ✓ 手すり導入により、夜間帯・居室・転倒のヒヤリハットの割合が減少している

29

考察

簡易手すりを導入し、居室内に安全な動線が作られた事で…



自立度の向上

利用者が持つ動作能力を生かすことが出来た



プライバシー保護

過訪室が減少したことで、自身のペースで過ごしていただけた



職員の負担の軽減

転倒させてしまうという不安が軽減

さらに安全性を高めるには…

- ✓ ベッドの配置やセンサー等の総合的な環境設定が必要
- ✓ 自宅環境や生活環境などの社会背景を把握することが大切

30

今後の課題



31



32